

# 令和7年度和歌山県名匠

かな さき あき ひと  
金 崎 昭 仁

## ◎ 業績及び経歴

昭和33年、日高町に生まれる。大阪の大学を卒業後は証券会社に就職するも、昭和59年に家業であった黒竹業に従事する。以降、父・昭一郎氏の背中を見ながら自身の黒竹製作の修行を積み、現在に至る。

日高町原谷地区では、明治時代初期より黒竹の植林が始まり、昭和の終わりには全国一の生産地として名を馳せた。しかし、住宅様式の変化による和室需要の減少や、鹿の食害による竹林の荒廃などにより、生産者の多くが廃業。現在では、氏が代表を務める有限会社金崎竹材店が国内唯一の黒竹生産工房として、その伝統を守り続けている。

氏は、竹の伐採から選別、乾燥、直火による油抜き、艶出しまで、すべての工程を一貫して行い、長年の経験に基づく感覚と技術で高品質な黒竹を製作している。その黒竹は、色艶・耐久性ともに優れ、全国の神社仏閣や地元の民芸品にも使用され、さらには床柱<sup>とこばしら</sup>・茶道具・装飾材としても高い評価を受けている。

また、後継者の育成や技術の継承にも力を注ぎ、地域の小・中学生を対象とした体験学習を開催し、黒竹の歴史や文化を伝える活動を続けている。近年では、黒竹林の保全・再生や耕作放棄地の活用を通じて、地域産業の持続可能な発展にも尽力。さらに、大阪・関西万博2025への出展を通じて、和歌山の黒竹文化を世界へ発信するなど、その活動の幅を広げている。

このように、熟練の技を持った技術者としてだけでなく、和歌山県で受け継がれてきた黒竹産業を後世に引き継ぐために非常に重要な役割を果たしているその功績は多大である。

職 種：黒竹製作

住 所：和歌山県日高郡日高町

生 年：昭和33年